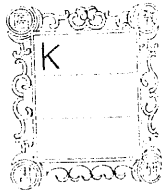


改正小學作法書

中野豐記

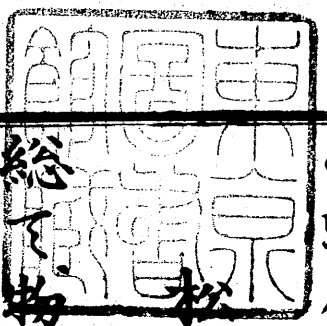
中澤中編輯

三



明治十八年

小學作法書卷の三



松岡明義校閲

中野豊記

中澤 中

編輯

るを第一とす。

何事にも男子のいさましく、執り行  
ひ、女子のやもららに、仕習ふべし、  
平生慎みて、ちやりごとを、又、いやし

作法書

卷三

一

ま詞おどを遣ふべうらひ、

詞ハ丁寧にして、さそやかなるべし。

人と話をときハ人を止めて、己れのみ、

語るると勿き

己れの、談話中ありとも、他人言を出せ

ときハ、己きあむらく止めて、之を聞く

べし。

人の、悪事を談じ、又ハ人を評すること

なかれ、

己れの、解せざる事ハ、人ハ話をべから

ず、

多言ハ、人に嫌をもくものふれハ、無用

の談話を、なまべからば、

凡て、話しを、為さんとする時ハ、先づ能

く、心を沈め、順序を逐ふて、徐ふ語るべ

し。

不具の人にも勿論其家内の人もも  
之に類したる話にはあまづからば、  
不具の人たゞとも決して侮り笑ふべ  
からば、

人に過ちあることも之を笑ふべからば、  
我より賤しき人なりとも決して見下  
すべからば、

人の話の中ふは、志むく、問ひ返す  
べからば、

話しの疑も、しき所又ハ、聞き落したる  
所あらば、話し終りて、之を聞くべし、  
人の談話ハ、假令をかゝき事ありとも、  
決して笑ふべからば、  
凡て人の話を聞く時ハ、心を沈めて他  
事を思ひ考ふべからば、

障子、襖ハ、跪きて徐に、開閉すべし、

閉ぢ盡さずして、少くひらき置くべからば、

己れの開きたる時ハ、必ず閉づべし、  
板の間などにしてハ、腰を屈めて、開閉を  
べし、

衣服ハ、一所にありて、徐小着るべし、  
衣服ハ、襟と前とを整へ、袴ハ、前と後とを  
揃ふべし、

帯ハ、縫目を下ふなり、能くのこゝを定め、  
正しく結ぶべし、

人の前みて、前を整へ、又ハ、帯を仕直さ  
べからば、

衣服の善悪を、いふべからば、

人の衣服の善悪を、評まづからば、

己れ、好き衣服を、着たりとも、決して、人  
に、たのぶるべからば、

湯に入るときは、先づ能く全身を洗ふべし。

混浴に入りたる時は、已き熱しとて、妄りに水を入れしむべからず。

湯又ハ、水を散らし、て人に及すことおかし。

湯の内において、たゞの聲を發し、つからば、

湯の内外とも、他人の妨げをおぼへからば、

人の家には、案内を請ふずして、入らば、

席に著く時は、我々坐す所より、少し下りて坐すべし。

座に就く時と、起つ時ハ、必ず會釋をべし。

人の往来すべき所に在、坐すべからば、人の前に、坐すべからば、

尊長より、問をもし、事ありとも、已れ、差し出で、答ふべからば、

祝の席に在、不吉の事を、いふべからば、

取次ふ、出でたる時、坐して、拜禮まゝ、

取次をおむ時、たすき、まんだれを取、りて出づべし、

客の、帽子、襟巻など、踏まざる所、お、収め置くべし、

客ある時、犬、猫たりとも、たゞ、聲にて、叱るべからば、

書状など、の、軽きものを、進むとに、跪きて、向をおほし、左の手に、据ゑ、

右の手を添つて進むべし、

書物ハ、跪きて、下に置き、向を直し、推して進むべし、

檯の上ハ、進むるにも、腰をかづめて、一且、檯の上ハ、置き、向を直し、推して進むべし、

若し、脇より進むる時ハ、腰をかづめて、客の左の脇ハ、置き、向を直さざりて、横

ハ、推して進むべし、

書物を、下げざる時ハ、跪きて、少し引よせ、向きをなほし、両手に持ちて、立ちかへるべし、

檯の上より、下げるにハ、腰をかづめて、なほし、

若し、脇より下げる時ハ、左の脇より、横に引よせ、向を直さずして、持ちかへる



づし、

煙草盆を出すにむ、火入を、客の左りに  
おし、跪き、下ふ置き、推して進むづし、  
煙草盆を下げし時、客の前に、跪き、兩  
手にて、少し引き寄せ、持ちて、立ちあへ  
るづし、

火鉢を出さむ、煙草盆の如くにまきづし、  
若し、足ある時、二つの足を、客の方に  
向くづし、

凡て、足の三つある物、客の方に、二つ  
の足を向くむづし、

茶を進むるに、臺を兩手にて持ち、跪  
き、出すづし、

客若し、茶碗のらを取らむ、臺を、持ちて  
かつむづし、

杖傘等を進むるに、右の手にて、中程

を持ち、左の手にて、末を少しく下げて、  
持つべし。

手袋を進むるに、指さきを、手前ふか  
し、右の手に持ちて、出まづし。

小刀を進むるふ、柄を向ふにかゝ、右  
の手に持ちて、出まづし。

菓子を、食まるとに、両手の指ふて、二つ  
に割り、右の方より、食ふべし。

饅頭などの、中におあんあるもの、之を  
散らさぬ様に、食ふべし。

菓子を、喰ひ餘したる時、紙お包みて、  
袂お入るべし。

茶を受るとに、両手にて取り、一旦、下に  
置くべし。

茶を吞むふ、茶碗を、右の手にて取り、  
左の手を、下にあらふべし。

小學作法書卷の三終

版權免許

明治十六年十一月六日

明治十七年五月廿八日改題御届  
全 十八年一月十日改正御届

編輯人

福島縣平民

中野豐記

新潟縣新潟區學校町通貳番丁廿四番地

全

新潟縣士族

中澤中

全縣區西大畑通貳番丁十三番地

出版人

全縣平民

井筒駒吉

全縣區古町通貳番丁三十三番地

全

全

目黒十郎

全縣古志郡長岡末四ノ丁十九番地

